

## 県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 60	107	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 0	1	ヘルパンギーナ	↑ 135	91
咽頭結膜熱	↑ 29	18	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↑ 32	31
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	↑ 102	83	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 411	468	流行性角結膜炎 (はやり目)	↑ 16	11
水痘	↓ 43	51	細菌性髄膜炎	↓ 0	1
手足口病	↑ 17	11	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	↑ 2	1	マイコプラズマ肺炎	↓ 2	4
突発性発しん	↑ 44	42	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い  
感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 411 件(前週報告数 468 件)と減少。  
地区別では、山鹿、有明、菊池に多く報告がみられる。  
年齢別では、1歳の 69 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- ヘルパンギーナは、報告数 135 件(前週報告数 91 件)と増加。  
地区別では、人吉、菊池、天草に多く報告がみられる。  
年齢別では、1歳の 51 件を最多に主に 8 歳以下からの報告である。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 102 件(前週報告数 83 件)と増加。  
地区別では、人吉、有明、熊本に多く報告がみられる。  
年齢別では、4歳及び 8歳の 16 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性連鎖球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎
熊本市保健所	16		13	52	115	17	1	1	13		17	8		15				2
山鹿保健所					46	1			1		2		*	*				
菊池保健所	15		8	5	54	7	8		4		36	3						
阿蘇保健所				2	12								*	*				
御船保健所					3								*	*				
八代保健所	15		1	4	24	12	3		1		3							
水俣保健所	6		2		14			1	4			1	*	*				
人吉保健所				12	29	1	1		3		32		*	*				
有明保健所			3	17	70	4	3		6		14	3						
宇城保健所	1		1	3	20	1			5		13	5		1				
天草保健所	7		1	7	24		1		7		18	12						
計	60	0	29	102	411	43	17	2	44	0	135	32	0	16	0	0	2	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳 以上	
インフルエンザ	60			2	1	2	5	11	9	6	5	2	10	2	2	3						
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20以上							
RSウイルス感染症	0																					
咽頭結膜熱	29		3	9	2	6	3	1	2	1	1	1										
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	102		1	1	4	7	16	15	11	7	16	6	12		6							
感染性胃腸炎	411	5	40	69	41	42	42	29	24	15	15	17	49	4	19							
水痘	43	2	1	11	5	9	4	7			1		2	1								
手足口病	17			7	4	4			1													
伝染性紅斑	2			1							1											
突発性発しん	44	4	18	19	3																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	135		2	12	51	23	21	14	7	1	1	2		1								
流行性耳下腺炎	32			1	2	2	5	5	5	4	3	3		2								
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	16			1	1				1				2	1	1	2	3		1	3		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	2		1	1																		
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

- ◇ 咽頭結膜熱：菊池
- ◇ 感染性胃腸炎：山鹿
- ◇ ヘルパンギーナ：人吉

ヘルパンギーナ

今週のヘルパンギーナの報告数は135件で、前週の約1.5倍の数になりました。人吉地域では、報告数が警報基準値を越えている地域は、人吉、菊池の2地域に増えました。ヘルパンギーナは、夏に流行する小児の急性ウイルス感染症で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。発熱と、のどにできる水泡性発疹が特徴で、急な発熱で発症します。2~4日ほどで熱はさがり、その後発疹も消失し、ほとんどの場合経過は良好ですが、まれに髄膜炎や心筋炎を起こすことがあります。特に、ぐったりしている、強い頭痛・嘔吐を伴う発熱が2日以上続く、などが見られた場合は医療機関を受診するようにして下さい。ウイルスは、患者の鼻水や唾液、便などに存在し、回復しても数週間は、便中にウイルスが排泄されます。一般的な予防は手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。外出後、食事の前やトイレの後は、流水と石けんで十分に手を洗い、タオルの共用はしないようにしましょう。保育園等小児の施設では、特に注意して感染予防に努めてください。

